日本だけが風力被害者を弾圧して黙らせている。

低周波被害者の会の窪田さんと話していて、日本では、なぜ、風力被害者たちが反対運動をしないのだろう、という点に気が付きました。

海外では、アメリカ、ヨーロッパなどではたくさんの風力被害者たちがStop wind turbine　といってデモ行進しています。地域の人々と一緒になって、風力発電はいらない、と叫んでいます。

私は畑地区の被害者たちから依頼を受けて、由良町議会の一般質問などで風力発電の低周波被害を訴え続けたわけですが、すさまじい弾圧があったことはこれまで書いてきた通りです。去年の12月議会の29回目の一般質問の答弁を添付します。

また、2/7日のページには、畑地区で行われたアンケート調査結果の説明を受けて、被害者が発言している様子をアップしています。被害者たちはすっかり屈服して、「私たちはもういいですから」と言わせています。これは全国の風力被害者が最後に言っている言葉でした。この後、谷口さんはすぐに亡くなりますが、人が苦しみながら死ぬことになるのに、なんということかと思いませんか？

2018.1/20日付、1/22日付のページには、被害者たちが懸命に被害を訴えている様子をアップしました。

伊豆半島では、H.20年の初期の頃、確かに被害者たちの反対運動がありました。汐見先生や窪田さんが被害調査をして、すぐに反対運動は崩壊しました。彼らが独自に調査してまとめた被害報告書はどこへ行ってしまったんだろうか。20軒ほどの被害者たちは、どこかへ引っ越していなくなってしまった。社会的に地位のある人もいたと聞く。あれほどのレベルの高い調査資料は、その後作られてはいない。私の『風力発電の被害』は、由良町で起こった風力事件を記録しただけで、この惨劇を早く伝えることだけが目的であった。全国に配布された。

日本では、すでに各地で風力発電の低周波被害が社会問題になっている。風車建設反対運動があちこちで起こっていて、建設中止になった地域がたくさんある。由良町もその一つです。

しかし、ここでよく考えてもらいたい。日本では、被害者たちが反対運動をしないように弾圧されている。風車が止められたことなど一度もない。たくさんの被害者が引っ越して逃げ出しても、低周波被害を訴えながら死んでいっても、「被害はない」と言われている。私一人が、風力発電の低周波被害、健康被害を訴えている。

これは今、各地で風力反対運動にかかわっている環境運動家も、もちろん承知していることなのだ。つまり彼らは御用運動家の側面を持っている。「一度、風車が建てられたら止めることはできない」と。

そんなことがあるものか。ボタン一つで止められるのだ。

風力発電の電気など微々たるもので、乱高下があって、実際には利用はされていないだろう。去年の暮れ、産経新聞には全体の発電量の0.6%だと記載されていた。本当は、もっと少ないだろう。たぶん稼働させるだけで一般の電気を使いこんでいると思う。

3/2日のページに書いたように、電気の有りようは大きく変化している。電気需要は落ち込んでいる。

つまり風車建設には反対しても、今、風力発電に苦しんでいる被害者を救う気はさらさらないのだ。自宅を追われた人、苦しみながら亡くなった被害者は「関係ない」とされている。

被害地域も同じことになっている。地域の人々は「被害はない」と言って、私を拒否するようになっている。

かつてジャーナリストや運動家が由良町に来た時、「地域の引き裂き」、「社会の崩壊」といった同じ言葉をつぶやいた。その通りになっている。

地域の活性化？　由良町の発展？　役場や議員、地域の人たちはそういうが、どういう意味なんだろうか。人が苦しんでいる。苦しみながら亡くなっている。なにがおかしいのか。笑いものにすること自体が異常ではないか。由良町では、私一人が風力被害を訴え、大声で叫ぶことになっていた。もちろん先日の選挙ではその通りにした。総スカンだった。エライことになっていると思いながら最後まで訴えた。

アホ役やなぁ、と思いながら。

しかし実のところ、全国の風力被害地で同じことになっている。環境運動家たちは被害のことを聞きに回るが、被害者を助けることはない。むしろ風力被害を否定して、これからは再エネの時代だと得意になっている。御用運動家よ。行政の提灯持ちよ。

海外では、地域の住民が連携して、協力して、プラカードを掲げて、風力被害を訴えている。私のページに紹介してきた通りです。彼らは地域社会のこととして重く受け止めています。日本よりも人口が少なく、まばらにしか人が住んでいないのにです。

国の施策、国策だからでしょうか。「納得してもらう」という方針に被害者も地域の人々も、簡単にひれ伏してしまった。タダの人権蹂躙でしかないのにね。一部の人たちがボロ儲けしているだけの政策なのにね。

私たちの民主主義は、こんなにもろいものだったのか。空虚な、根拠のないものだったのか。

風力被害を受けて、引っ越していなくなった人たち、私に泣いて苦しさを訴えて亡くなった人たち、もちろん役場にも訴えていたのにヒドイ言葉で拒否されて絶望した人たち、議員たちに裏切られた人たち、今も有害な低周波に苦しんでいる人たち、大問題を積み上げて高笑いしている悪党がいる。

なぜ私一人が正義漢ぶっているんだろう。これまでの弾圧に耐えてこれたんだろう。数人だけれど、応援してくれる人がいるからかもしれない。

よかったら、ウソで固められた風力発電に反対しないか。たくさんの風力被害者が苦しんでいる。知っていると思うが、低周波被害者は頭がいかれている人が多い。簡単に裏切るし嘘もつく。行政は管理がしやすいのだ。

窪田さんも私も低周波被害者である。たまたま汐見先生と縁があった。低周波被害という厄介な公害に、立ち向かう時代になっている。

公害とは、いつも少数の被害者が苦しめられて殺されている。水俣病やイタイイタイ病、石綿公害などと同じことになっている。

風力発電の低周波被害は、地球温暖化などと言って、環境運動がテーマとされて隠されてきた。そしてヒドイ弾圧が行われてきた。被害の隠ぺい、弾圧の仕組みが分かれば、そのアホらしさに気が付く人も多くいるだろう。ぜひ、風力発電を止めてもらいたい。何の役にも立っていないのだから、誰も迷惑はない。風力業者と、被害者を弾圧してきた悪党が困るんやろ。

みなさん、温かい人間性を取り戻してもらいたい。由良町の風力発電を止めて撤去してほしい。